

表 3533 2015年中の出口部感染発症率(回/1患者・年) 治療方法(新分類)別(腹膜透析患者)

治療方法 (新分類)	0	1.0～	2.0～	3.0～	4.0～	5.0～	合計	不明 記載なし	総計	平均	標準偏差
腹膜透析 (CAPD)	2,338	364	123	38	22	32	2,917	1,985	4,902	0.36	1.01
(%)	(80.2)	(12.5)	(4.2)	(1.3)	(0.8)	(1.1)	(100.0)				
腹膜透析 (APD)	1,351	188	64	34	18	23	1,678	1,097	2,775	0.41	1.21
(%)	(80.5)	(11.2)	(3.8)	(2.0)	(1.1)	(1.4)	(100.0)				
腹膜透析 (CCPD)	549	104	21	13	6	8	701	391	1,092	0.39	1.05
(%)	(78.3)	(14.8)	(3.0)	(1.9)	(0.9)	(1.1)	(100.0)				
合計	4,238	656	208	85	46	63	5,296	3,473	8,769	0.38	1.08
(%)	(80.0)	(12.4)	(3.9)	(1.6)	(0.9)	(1.2)	(100.0)				
記載なし (%)											
総計	4,238	656	208	85	46	63	5,296	3,473	8,769	0.38	1.08
(%)	(80.0)	(12.4)	(3.9)	(1.6)	(0.9)	(1.2)	(100.0)				

数値下のかっこ内は行方向の合計に対する%です。

個々の患者の出口部感染発症率(回/1患者・年)は、1.0未満の数値が0となるため、「0」と表示しています。

*腹膜透析(CCPD)は、APDと手動のバック交換の両方を行うもの

(C)Japanese Society for Dialysis Therapy

2015年調査